

提出日： 2026 年 5 月 25 日

研究促進期間制度 研究実績報告書

所属学部・研究科	身分	氏名
総合政策学部	准教授	マシューズ サイ エルザ

研究期間	以下1～4より、取得した研究機関を選択し、該当番号を右欄にご記入ください。	
	1. 2025年4月 1日 ～ 2026年3月31日	1
	2. 2025年9月 1日 ～ 2026年8月31日	
	3. 2025年4月 1日 ～ 2025年9月20日	
	4. 2025年9月21日 ～ 2026年3月31日	
活動報告	研究期間中に実施した研究活動を具体的にご記入ください。 海外活動補助費を受給した方は、海外活動の内容が分かるようにご記入ください。	
	2025 年度は、物語におけるオーラリティの一人称の役割について研究しました。特に、フィクションと詩における物語の構成と表現に注目しました。具体的には、次のことを研究しました。 ・曖昧さと多声性が、フィクションと自伝にどのような影響を与えるか ・第二言語で詩を読み、それに反応することの社会的な役割 年度の前半では、Charles Portis と Wallace Stevens の作品を中心に研究しました。後半では、Charles Portis、John Fante、John Irving、そしてシンガポールの詩を中心に研究しました。	
得られた研究成果について	上記の研究活動の結果、得られた研究成果についてご記入ください。	
	この研究から、次のテーマについて二つの論文を書きました。 ・Charles Portis の小説における表象 ・日本の教育的な文脈における Wallace Stevens の詩 ・Charles Portis の二つの小説におけるオーラリティ ・John Fante のフィクションにおける家族表象の曖昧さ。 また、シンガポールで行われた (Wallace Stevens) に関する学会でも発表しました。	
今後の計画について	得られた成果を踏まえ、今後どのように研究を発展させる計画か、ご記入ください。	
	これらのテーマについての二つの論文を、今後も続けて書く予定です。 ・John Irving における物語とだまし ・三人のシンガポールの詩人におけるオーラリティと声 これらの論文は、2026 年度中に出版したいと考えています。 Portis、Fante、そして Irving に関する研究は、他の作家も含めた本の長さの研究の一部として、まとめる予定です。	